

平成30年度 学校評価表

菊池女子高等学校

学校教育目標	各科の目標	今年度の重点目標
1 質素、忍耐、規律、思いやりを基軸とし、知性、学識、健康、道義、友情の形成を高揚する。 2 課程の如何を問わず、常時一人もれなく学習生活の目標をもった生徒の教育を遂行する。 3 その他常に顧みて創立の精神に徹した教育を実践する。	普通科 一般コース 1, 一般的県立普通高校と同一の普通教科の履修。 2, 体育、文化面等に思い切り個性を伸ばし、幅広く楽しい高校生活の創造。 3, 事務系、実技系、あらゆる企業への完全就職。 4, 短大の推薦入学や、准看、美容、調理師等の国家資格取得校への進学。 5, 礼儀正しく、節度ある良識人の育成。	○地域間交流 ○世代間交流 ○国際受信・発信 } の意識啓発と活動 ○eトレでのレベルにあった学習支援 ○私学ならではの個性を引き出す教育 ○自分の居場所をつくれる環境の整備
	普通科 進学コース 1, 4年生大学、入試の厳しい高看、短大等への進学生であることの自覚と決意の継続。 2, 目標大学及びその受験科目を早期に自主決定すること。 3, 希望校への受験勉強に青春の情熱の一切を賭ける。(家庭学習5時間の確保) 4, 不断の努力と忍耐の成果として、確実に目標大学に合格する。 5, 日々の思索や学習態度を通じ将来、幅広い高度な人生を創造できる人材となる。	
	家庭科 被服コース 1, 被服全般に関する広い知識を身につける。 2, 被服製作の技術を確実に身につける。 3, 被服関連企業への就職又は、技術自営の出来る技能者となる。 4, 女性としての良識を備え、豊かな家庭生活を支える人材となる。	
	社会福祉科 1, 先ず、福祉の心、人間としての真の優しさを養う。 2, 福祉看護の基礎知識、基礎技術を身につける。 3, 介護福祉士の国家資格をとる。 4, 福祉・医療系の上級学校への進学。福祉関係職場に就職する。 5, 将来、福祉社会を支える人材となる。	

A・・・よくできた B・・・できた C・・・あまりできなかった D・・・できなかった

評価項目		具体的目標	具体的な取組計画・内容	評価	成果	課題
大項目	小項目					
学習指導	学習習慣の確立	授業に積極的に取り組む姿勢を身につけさせることができた	B	・学習意欲が向上した		
		eトレなどを利用し自主的な家庭学習に通じる効果的な課題が提示できた	C	・保健室登校の生徒に対して、担任と協力し、eトレ課題を出してもらうようお願いできた ・eトレ強化週間を活用できた ・学力の向上につながっている	・7限目の有効活用が必要 ・目標を持って取り組む必要がある	
	学力の向上	生徒の学力を把握しそれに応じて丁寧に指導することができた	B	・課外時、生徒の学力に応じ対応できた ・クラスに応じて適する授業を展開した	・時間が不足した	
	授業の工夫	生徒に興味関心を持たせ学習意欲を高めることができた	B	・国試に向けて取り組めた ・授業を欠席する生徒が少ない ・他の教科や日常生活とも関連付けた		
		わかりやすい授業を行い、生徒一人ひとりに応じたきめ細やかな指導に取り組むことができた	B	・個人的にはできた	・授業準備の時間が足りないところがあった	
	教員の資質向上	教材研究が意欲的かつ積極的にできた	B		・クラス経営に時間を費やしすぎて時間が十分になかった	
		研修や意見交換などを通じて切磋琢磨できたか	B		・科として授業内容との話す場が必要 ・校内の意見交換会がが必要 ・意見交換の場が少ない ・教科外でも参観するなどして意見をもらいたい	
	進路指導	自己理解	自らの個性に向き合い、自己理解を深めているか	B		・一人ひとり全員と向き合い話ができなかった
			自らの長所・短所について自覚を持って行動し、それに基づいて将来を構想している	B	・自己・他己評価を多く行った	・個人差を無くす取り組みが必要
		キャリア教育	職業観や労働観は育まれているか	B	・進路保障が達成できた	・習慣づけが必要
自らの人生を真剣に考え、どのような職業につくべきかを考察できている			B			
インターンシップ等の取り組みができた			C		・進路選択には重要な役割を果たすインターンシップは出来ていなかった	
受験への対応策		校外模試や検定試験を積極的に活用しているか	B	・定期的に模試を実施することができた(福祉科)		
	面接や小論文に必要なコミュニケーション能力・一般的な知識・論理的思考力は向上している	B	・eトレなどの活用が大事	・夏休み前からの取り組みが必要。量が少ない		
生徒の指導	進路情報の提供	進路ガイダンス等の行事は有効に機能しているか	B	・計画通りできた ・事前学習を行い、進路フェアに望めた	・事後に時間が取れなかった	
		進路情報を必要な時期に生徒・保護者に発信できている	B			
基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退の理由を把握して適切な指導が出来る	B	・支援の要る生徒への配慮ができています	・理由は把握していたが、その後につなげることができない部分があった ・長欠の生徒に対して、担任学年と協力し、家庭訪問など不足する部分が多々あった ・クラスによってばらつきがある	
		身だしなみについて日常的に意識させることが出来る	B	・定期的に服装検査を行った ・生活指導の充実とクラスの取り組みが向上		

生徒指導	安心安全な環境づくり	学校生活の諸活動の場面で生徒の変化に気づき適切な対応を図っている	B	・担任や学年代表、教科担当者と保健室利用状況などの情報交換ができた ・協力して生徒の変化に対応できた ・共通認識として共有できた	
		様々な不安や悩みを抱える生徒に対し親身に対応がしている	A	・担任らと協力し、SCに共有が図られるようにした ・学校全体で見守り、対応できている ・時間を作り生徒と話す時間を持った	・保護者へのアプローチを深めていきたい
		学校は人権教育の推進に力を入れ、いじめのない環境づくりを行っている	B	・人権担当者をはじめとし、日頃から学習や指導が行われている ・いじめ問題について考える時間を持った ・LHRを通して実施ができた	
		講習会を実施し、インターネットやSNSなどの危険性を理解させている	A		・危険性など学んだことを自分の事として考え、行動できるように指導が必要 ・定期的に学校全体での取り組みが必要
		避難訓練を実施するなど、日頃から防災意識を高めることができています	B	・消防署からの避難訓練やシェイクアウト訓練などを行った ・実施することで生徒の意識が高まった	・防災に対してのマニュアル作成、周知が必要 ・休み時間など生徒間で考えて行動できるか不安
		全職員が学年や係等のそれぞれの立場で連携をとり生徒指導にあたっているか	B	・問題行動が減少した ・連絡を密にし、臨機応変に対応できた	・機能していない係があったので検討が必要
課外活動	生徒会活動	生徒の自主的・主体的活動を促すような指導がされている	B	・生徒会の自主的な活動が見られた	
		体育祭や学園祭など生徒会を中心に準備、運営、協力を尽くせるような指導ができた	A	・生徒会を中心に準備等、率先して行動できた ・生徒会を中心に各クラス協力しながら取り組んでいる ・生徒会の自主的な活動が見られた	
	部活動など	部活動や同好会活動に積極的に参加している	B	・地域のイベントやボランティアなどたくさんの生徒が積極的に取り組んだ	・部活動に入っていない生徒が多い ・部活動の種目を増やす取り組みが必要
		教職員は部活動の推進と技術向のため積極的に指導に取り組んでいる	B	・外部コーチ（茶道）と連絡調整を図りながら指導して頂いた	・外部コーチとの連携が難しい
学校運営	家庭・地域との連携	学校行事への招待など積極的な世代間交流・地域間交流ができた	A	・立野病院など外部との交流ができた（福祉科） ・お茶会等を通して交流ができた	・詳しく説明する時間が必要 ・体育祭、学園祭、女子舞ひろめ隊活動などで、小学校や保育園と交流する
		学校行事や授業を通し、国際受信・発信ができた	B	・スカイプを利用して海外の人たちと話すことができた ・教科の特性が活かされている	・全教科に広げる努力が必要
		ホームページ・赤レンガ・安心メール・学級・学年通信を通して各種情報を生徒、保護者、外部に発信できた	A	・赤レンガ（保健便り）、HP等で講演会や環境理性検査結果など発信できた ・安心メールでリアルタイムに情報発信ができた ・定期的に発信できた	・外部からの問い合わせに対しての在り方 ・安心メールで誰が既読しているのかわからない
		地域の資源を生かしながら地域貢献ができた。また、地域の資源を生かした活動ができた	B	・認知症サポーター講師補助として活躍できた ・地域の様々なイベントにボランティアや部活動として参加できた ・菊池の曲を使い、女子舞を作り上げ、地域に貢献できた	・アイデアを考える
		学校と保護者教育委員会、同窓会の連携は円滑に機能している	B		・同窓会との連携が必要
理事長による所見	重点項目に関して、それぞれ昨年より更なる活性化が見られ、成果として地域との結びつきも拡大し、生徒の成長・学校の発展につながった。一方、学習の強化は課題。授業、教材の工夫、教師の校務の優先順位、効率化を図り、生徒たちに質の高い対応ができるよう工夫したい。				